

領 域	専門分野	開講時期	1 年
科 目 名 (単元名)	地域・在宅看護方法論 I	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①平川真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・助産師 17 年) ②山本幸子 (地域包括支援センター・介護支援専門員 看護師 21 年) ③松井友美 (かがやき訪問看護ステーション・管理者・看護師 18 年) ④内田優子 (かがやき訪問看護ステーション・訪問看護師・看護師 17 年)		
<科目目標> 地域・在宅で暮らす対象の健康維持・増進、疾病予防生活上の課題解決に向けたケアマネジメント、 家族支援の実際、生活支援、介護予防、リスク予防のための包括的支援体制を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	I. 地域・在宅で暮らす対象のケアマネジメント 1. ケアマネジメントとは 2. ケアマネジメントのあり方 3. ケアマネジメントの目的 4. ケアマネジメントの特徴 5. 地域・在宅看護におけるケアマネジメントでの看護者の役割	講義	①
2・3	II. 地域・在宅で療養する対象の健康段階に応じた看護の要点 1. 慢性期における看護 1) 心身状態及び療養生活状況の確認 2) 再発予防や生活の質の維持・向上 3) 継続的な健康管理 4) 介護負担の軽減 2. 急性増悪期における看護 1) 心身状況のアセスメント、急性増悪時の早期発見・早期対応 2) 医療機関、関係機関、関係職種との連携 3) 入院手続き、入院準備、必要書類の準備、看護状況、介護状況、生活状況の情報提供 4) 家族への支援 3. 回復期における看護 1) 心身状況のアセスメント 2) 心身の回復及び増悪予防の指導 3) 生活の再構築に向けた指導 4) 退院準備、生活環境の調整 5) 退院時関係職種カンファレンス 6) 地域・在宅療養生活におけるリスク予防 4. 終末期における看護 1) 療養者及び家族の意思決定支援 2) その人らしい療養生活を支える関係機関、関係職種との連携・協働体制構築 3) 対象の健康状態の確認と病状変化の予測 4) 疼痛コントロールと QOL 支援 5) 療養者および家族への精神的支援 6) 看取りとグリーフケア	講義 演習	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
4・5	<p>Ⅲ. 地域・在宅におけるケアマネジメントの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメントの視点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 意思や価値観の考慮</li> <li>2) 自律・自立度の維持、向上 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ADL、IADL</li> <li>(2) 日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度</li> <li>(3) 要介護状態区分</li> </ol> </li> <li>3) 健康状態と暮らしの状況の把握 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康状態の把握</li> <li>(2) 暮らしの状況の把握</li> </ol> </li> <li>4) 健康の危機管理、今後の予測と予防策 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 災害時の地域のハザードマップの確認、避難先、避難手段、ライフラインの確保</li> <li>(2) 緊急時の受け入れ施設の確保</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. ケアマネジメントのプロセス <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象のニーズのアセスメント：ニーズや課題の把握と今後の予測</li> <li>2) 課題解決のためのケアプランの作成：社会資源（サービス）の選定</li> <li>3) ケアプランの実施：サービス提供</li> <li>4) モニタリングと評価：ケアプランのフィードバック</li> </ol> </li> <li>3. 療養時期、療養の場に応じた支援体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅療養準備期にある対象 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 退院支援、退院調整</li> <li>(2) かかりつけ医、療養の場の決定</li> <li>(3) 保健福祉機関との連携</li> <li>(4) 退院前カンアレンスでの支援の検討</li> </ol> </li> <li>2) 地域・在宅療養安定期にある対象 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域連携クリニカルパスの活用</li> <li>(2) 保健医療福祉機関との連携</li> <li>(3) 地域ケア会議、サービス担当者会議等の開催</li> <li>(4) 社会資源の活用、地域住民との連携</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4. 介護保険制度上のケアマネジメントの実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養におけるケアマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <u>非該当及び要支援者の介護予防サービス計画の立案</u></li> <li>(2) <u>要介護者の居宅サービス計画の立案</u></li> <li>(3) 医療機関、サービス事業所との連携</li> </ol> </li> <li>2) 施設療養におけるケアマネジメント <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <u>要介護者の施設サービス計画の立案</u></li> </ol> </li> <li>3) 地域包括ケアシステムにおける関係機関、多職種との連携、協働 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療機関、かかりつけ医との連携、協働</li> <li>(2) 行政、地域包括支援センターとの連携</li> <li>(3) 居宅介護支援事業所との連携</li> <li>(4) 介護保険施設、介護サービス事業所との連携</li> <li>(5) 地域住民との連携、協働</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>	講義 演習	②
6	<p>Ⅳ. 地域・在宅で暮らす対象を支える家族の支援の実際とサポートシステムの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族のアセスメントの要点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族機能の判定</li> <li>2) 家族がもつセルフケア力の判定</li> <li>3) 家族構成員（介護者）の介護力の判定</li> </ol> </li> </ol>	講義	②

6	2. 家族の支援の実際 1) 家族関係の調整 2) 日々の介護指導 3) 在宅看取り、グリーフケア	講義	②
7	V. 地域・在宅で暮らす対象の緊急・災害時における健康危機管理の実際 1) 地域住民への防災対策の周知と啓蒙 2) 地域・在宅で療養している要介護者の把握と緊急・災害時支援体制の整備 (1) 医療管理が必要な対象 (2) 要介護者 3) 医療と暮らしの確保 (1) 福祉施設や医療施設等の搬送先の確保 (2) 医薬品、医療材料物品の備蓄 (3) 行政(市町村・消防署・警察)との連携・協働 (4) 大規模災害時の災害派遣要請等	講義	③④
8	筆記試験		①②③④

#### 授業の進め方

地域・在宅で暮らす対象の健康維持・増進、疾病予防生活上の課題解決に向けたケアマネジメントの実際がイメージできるように、地域・在宅で療養する対象の暮らしぶり、ケアマネジメントの実際を紹介しながら進める。また、地域・在宅で療養する対象の生活支援、介護予防、リスク予防のための包括的支援体制について、地域包括ケアシステムや介護保険法に基づくサービス体系を想起し、自助、互助、共助、公助による支援の活用の実際や、保健医療福祉との連携、協働の場面を紹介しながら進める。

地域・在宅で療養する対象の健康段階に応じた看護では、臨床看護総論Ⅰ、成人看護方法論の知識を想起しながら、地域・在宅看護の要点を理解する。対象を支える家族（介護者）の支援の実際では、家族の機能、介護力の判定に必要な視点をおさえ、家族支援の実際について具体的に紹介する。対象の健康危機管理では、地域における緊急・災害時の取り組みの実際を紹介しながら進める。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域在宅看護の基盤 (医学書院) : ①②③④
2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実際 (医学書院) : ①②③④
3. 国民衛生の動向 2022/2023 年版 (厚生統計協会) : ①②

#### 評価方法

筆記試験、授業参加状況により評価する。

領 域	専門分野	開講時期	2 年
科 目 名 (単元名)	地域・在宅看護方法論Ⅱ	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①高木雅弘(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 31 年)		
<p>&lt;科目目標&gt;  地域・在宅で暮らす対象の発達段階、健康状態、生活状況に応じた日常生活を支える看護援助を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1・2 ・3	I. 地域・在宅で療養する対象の暮らしを支える看護 1. 地域・在宅看護における日常生活援助技術とは 1) 生活行動のアセスメント、援助の方法、支援・教育の要点 2) 健康状態のアセスメント、援助の方法、支援・教育の要点 3) 在宅におけるコミュニケーションを支えるケア (1) コミュニケーション能力のアセスメント (2) 対象のコミュニケーション能力に応じた対応 (3) 補助機器の種類を選択と使用 4) 訪問の心構え	講義	①
4・5 ・6	II. 在宅における日常生活を支える援助技術 1. 栄養を支える援助 1) 食事摂取能力(嚥下・消化・吸収能力)のアセスメントと誤嚥・窒息防止の援助 2) 食事形態の選択、食材の調達方法に関する援助 3) 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助、食事環境の調整 4) 食事摂取能力に合わせた援助、食事形態の工夫 (1) 食事形態の工夫 (2) 自助具の活用 3) 経管栄養管理の確認 4) 胃ろう管理と栄養注入 5) 口腔ケア(留意点) 6) 熱中症予防(水分、電解質の摂取)、食中毒防止への援助 7) 配食サービス等の活用 8) 栄養を支える援助の計画立案	講義	①
7・8 ・9	2. 活動と休息の援助 1) ADL、IADL における移動のアセスメント 2) 生活リズムと睡眠・休息のアセスメント 3) ADL の維持・自立に向けた援助 (1) リハビリテーション (2) 生活・趣味を活かした訓練 (3) 移乗・移動補助具の活用：スライディングシート、移動リフト他貸与物品 (4) 安全な住居・生活環境の調整：住宅改修 (5) 移動援助の実際：グローブ等を用いた体位変換、車椅子での外出支援、ノーリフトケア 6) 廃用性症候群予防対策 (1) ポジショニング (2) 拘縮・褥瘡形成予防	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
7・8 ・9	7) 睡眠・休息への援助 8) 移動の援助の計画立案	講義	①
10・11 ・12	3. 排泄の援助 1) 排尿・排便のアセスメント (1) 排泄の状況と障害の確認 (2) 家族の介護力 2) 排泄行動の自立度や排泄環境に合わせた排泄援助の工夫 (1) 排泄環境の調整 (2) 排泄補助具の種類と選択 (3) 便秘の予防と援助（浣腸、摘便） (4) 新聞紙を用いた差し込み便器での排泄の援助 3) 導尿や留置カテーテル、ストーマ等の管理、交換時期や処理法、感染予防対策 4) 新聞紙を用いた差し込み便器を活用した排泄の援助の計画立案	講義 演習	①
13・14 ・15	7. 清潔の援助 1) 清潔状況のアセスメント (1) 全身の皮膚・粘膜の状態観察 (2) 清潔動作の自立度 (3) 家族の介護力 2) 清潔行動の自立に合わせた援助の工夫と家族への支援 (1) 浴室環境の整備 (2) 入浴介助、部分浴介助 (3) 臥床患者の清拭 (4) ベッド上での洗髪：簡易ケリーパッドの作成 (5) 入浴用椅子やバスボードなどの福祉用具の活用 (6) 訪問入浴サービス等の活用 3) 生活用具を用いた清潔の援助の計画立案	講義 演習	①

#### 授業の進め方

地域・在宅で療養する対象の多様な暮らしの環境下において、安全性や経済的負担などを考慮し、対象の発達段階、健康状態、暮らしの状況に応じた日常生活を支える看護援助を理解する。排泄や清潔の援助では、差し込み便器や簡易ケリーパッドを作成し、生活用具の代用や看護の工夫の実際について学ぶ。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域在宅看護の基盤（医学書院）
2. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

#### 評価方法

筆記試験、授業参加状況により評価する。

領 域	専門分野	開講時期	2年
科目名 (単元名)	地域・在宅看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①松井 友美 (かがやき訪問看護ステーション・管理者・看護師 18年) ②内田優子 (かがやき訪問看護ステーション・訪問看護師・看護師 17年)		
<科目目標> 地域・在宅で暮らす対象の発達段階、健康状態、生活状況に応じた日常生活を支える看護援助の実際を学ぶ。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	I. 地域・在宅における日常生活援助の実際 1. 訪問時におけるフィジカルアセスメント 1) 訪問の準備 2) 身体状況の観察 (1) 体温測定 (2) 呼吸数 (3) 脈拍測定 (4) 酸素飽和度測定 (5) 血圧測定：アネロイド血圧計での測定 (6) 胸部や腹部の視診、聴診、触診	演習	①②
2・3	2. 訪問時の在宅での日常生活援助技術の実際 1) 栄養を支える援助の実施と評価 (1) 対象の生活環境と生活時間を踏まえた食事摂取時の環境整備、姿勢の保持 (2) 食事摂取能力に応じた援助：食事形態の工夫、自助具の活用 (3) 経管栄養管理の確認 (4) 胃ろう管理と栄養注入の実際	演習	①②
4・5	2) 移動の援助の実施と評価 (1) 安全を確保した屋内環境の調整 屋内廊下、階段、浴室や玄関等での安全な移動の援助 (2) 対象の移動動作能力に応じた移動援助 ①スライディングシートを用いた移動 ②グローブを利用した体位変換 ③低床ベッドや布団を使用している対象や狭いスペース下での車椅子への 移乗 ④屋外における段差・傾斜での安全な車椅子移送 ⑤車への乗車介助、リフトによる移乗	演習	①②
6	3) 排泄の援助の実施と評価 (1) 排泄行動の自立度に合わせた援助と工夫 ①家庭の便器に合わせた排泄援助 (2) 家庭にある物で代用・工夫した援助 ①新聞紙を用いた差込み便器 (3) 摘便	演習	①②
7・8	4) 清潔の援助の実施と評価 (1) 清潔行動の自立度に合わせた援助と工夫 ①布団上での清拭 ②浴室での入浴介助 (入浴用椅子やバスボードの活用) (2) 簡易ケリーパッドでの洗髪 (3) 段ボールや発泡スチロールを用いた足浴	演習	①②

#### 授業の進め方

地域・在宅で療養する対象の健康状態、暮らしの状況、家族の介護力をふまえて、地域・在宅看護方法論Ⅱで学習した地域・在宅における日常生活援助技術、訪問看護の実際を演習する。母子実習室や実習室の在宅看護論実習スペースを活用し、地域・在宅看護方法論Ⅱで立案した援助計画をもとに、地域・在宅での暮らしの環境にあわせて、自助具や移動補助具等を活用した援助など生活用具を代用したり看護を工夫しながら演習する。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域在宅看護の基盤 (医学書院) : ①②
2. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実際 (医学書院) : ①②

#### 評価方法

授業参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

領 域	専門分野	開講時期	2 年																								
科 目 名 (単元名)	地域・在宅看護方法論Ⅳ	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)																								
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①高木雅弘(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 31 年) ②田上 香里 (訪問看護ステーションたけい・訪問看護師・看護師 20 年)																										
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>地域・在宅で暮らす対象の健康状態、生活状況に応じた治療処置や危機管理について理解する。</p> <p>【事前課題】：第1回の講義前までに、地域・在宅における酸素療法、人工呼吸療法(NPPV、TPPV)、腹膜透析、中心静脈栄養法などの在宅医療機器について、使用中の観察事項、管理上の要点を整理しレポートする。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2 ・3</td> <td>I. 地域・在宅で療養する対象の治療・処置看護 1. 地域・在宅で薬物療法を行っている療養者の看護 1) 服薬管理 (1) 薬物療法の効果と生活への影響、生活状況のアセスメント (2) 服薬の確認 (3) 服薬管理の指導、留意・工夫 ①のみ忘れや誤薬、重複内服予防のための対策、工夫 ②服薬支援機器等の活用 ③家族への服薬管理指導 2) 皮下注射、点滴皮下注射 (1) インスリン自己注射の指導 (2) 点滴皮下注射の管理上の留意点</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3) 疼痛コントロールと麻薬管理 (1) 在宅における疼痛緩和 (2) 麻薬管理 (2) 療養者と家族への麻薬管理の指導</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>4) 輸液療法(中心静脈栄養法) (1) 中心静脈栄養法による輸液管理 ①輸液の管理(点滴、衛生材料物品) ②皮下埋め込み式カテーテルや穿刺部の管理 ③外出時の服装の工夫 (2) 療養者・家族の生活への影響と輸液療法のアセスメント (3) 中心静脈栄養法で起こりうるトラブルとその徴候 (4) 感染予防対策 (5) 療養者・家族への輸液管理指導 (6) 医療機関・薬局・関係職種との連携</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2. 地域・在宅における医療機器管理の実際 1) 医療機器の種類 酸素吸入器、酸素ボンベ、人工呼吸器(NPPV、TPPV)、腹膜透析、中心静脈栄養など 2) 医療機器管理の実際 取り扱い、メンテナンス、留意事項など</td> <td>講義 演習</td> <td>① (医療機器会社)</td> </tr> <tr> <td>8・9</td> <td>3. 地域・在宅で酸素療法を行っている療養者と家族への看護 1) 地域・在宅における酸素療法(HOT)の看護 (1) 適応基準 (2) 導入の前提条件</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1・2 ・3	I. 地域・在宅で療養する対象の治療・処置看護 1. 地域・在宅で薬物療法を行っている療養者の看護 1) 服薬管理 (1) 薬物療法の効果と生活への影響、生活状況のアセスメント (2) 服薬の確認 (3) 服薬管理の指導、留意・工夫 ①のみ忘れや誤薬、重複内服予防のための対策、工夫 ②服薬支援機器等の活用 ③家族への服薬管理指導 2) 皮下注射、点滴皮下注射 (1) インスリン自己注射の指導 (2) 点滴皮下注射の管理上の留意点	講義	②	4	3) 疼痛コントロールと麻薬管理 (1) 在宅における疼痛緩和 (2) 麻薬管理 (2) 療養者と家族への麻薬管理の指導	講義	②	5・6	4) 輸液療法(中心静脈栄養法) (1) 中心静脈栄養法による輸液管理 ①輸液の管理(点滴、衛生材料物品) ②皮下埋め込み式カテーテルや穿刺部の管理 ③外出時の服装の工夫 (2) 療養者・家族の生活への影響と輸液療法のアセスメント (3) 中心静脈栄養法で起こりうるトラブルとその徴候 (4) 感染予防対策 (5) 療養者・家族への輸液管理指導 (6) 医療機関・薬局・関係職種との連携	講義	②	7	2. 地域・在宅における医療機器管理の実際 1) 医療機器の種類 酸素吸入器、酸素ボンベ、人工呼吸器(NPPV、TPPV)、腹膜透析、中心静脈栄養など 2) 医療機器管理の実際 取り扱い、メンテナンス、留意事項など	講義 演習	① (医療機器会社)	8・9	3. 地域・在宅で酸素療法を行っている療養者と家族への看護 1) 地域・在宅における酸素療法(HOT)の看護 (1) 適応基準 (2) 導入の前提条件	講義	②
回	授業内容	授業方法	担当講師																								
1・2 ・3	I. 地域・在宅で療養する対象の治療・処置看護 1. 地域・在宅で薬物療法を行っている療養者の看護 1) 服薬管理 (1) 薬物療法の効果と生活への影響、生活状況のアセスメント (2) 服薬の確認 (3) 服薬管理の指導、留意・工夫 ①のみ忘れや誤薬、重複内服予防のための対策、工夫 ②服薬支援機器等の活用 ③家族への服薬管理指導 2) 皮下注射、点滴皮下注射 (1) インスリン自己注射の指導 (2) 点滴皮下注射の管理上の留意点	講義	②																								
4	3) 疼痛コントロールと麻薬管理 (1) 在宅における疼痛緩和 (2) 麻薬管理 (2) 療養者と家族への麻薬管理の指導	講義	②																								
5・6	4) 輸液療法(中心静脈栄養法) (1) 中心静脈栄養法による輸液管理 ①輸液の管理(点滴、衛生材料物品) ②皮下埋め込み式カテーテルや穿刺部の管理 ③外出時の服装の工夫 (2) 療養者・家族の生活への影響と輸液療法のアセスメント (3) 中心静脈栄養法で起こりうるトラブルとその徴候 (4) 感染予防対策 (5) 療養者・家族への輸液管理指導 (6) 医療機関・薬局・関係職種との連携	講義	②																								
7	2. 地域・在宅における医療機器管理の実際 1) 医療機器の種類 酸素吸入器、酸素ボンベ、人工呼吸器(NPPV、TPPV)、腹膜透析、中心静脈栄養など 2) 医療機器管理の実際 取り扱い、メンテナンス、留意事項など	講義 演習	① (医療機器会社)																								
8・9	3. 地域・在宅で酸素療法を行っている療養者と家族への看護 1) 地域・在宅における酸素療法(HOT)の看護 (1) 適応基準 (2) 導入の前提条件	講義	②																								



回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	(3) 酸素療法時のアセスメントの視点 (4) 酸素療法開始時の支援 (5) 地域・在宅で起こりやすい異常やトラブルとその対処法 (6) 療養環境の整備 ① インターフェイスによるチューブ調整 ② 火災予防 (7) 禁煙指導 (8) 酸素ボンベの管理と禁忌事項、備蓄	講義	②
10・11・12	2) 人工呼吸療法の看護 (1) 地域・在宅での人工呼吸器管理 ① 非侵襲的陽圧換気 ② 気管切開下陽圧換気 (2) 人工呼吸療法及び気管カニューレ挿入中の看護、留意事項 ① 呼吸状態のアセスメント ② 気管カニューレの管理とケア方法 ③ 気管カニューレの交換時期と交換方法、交換時の留意点 ④ 電源の確保と機器コードの整理 ⑤ 蛇管類の交換と管理 ⑥ 意思疎通手段の確保 (3) 起こりやすいトラブルや異常と対応方法 (4) 感染予防対策 (5) 気管切開部からの吸引 ① 必要物品の管理 ② 卓上吸引器等での吸引方法 ③ 家族への指導 (6) 緊急時、災害（停電）時の備えと対応方法	講義	②
13	4. 地域・在宅で褥瘡処置を行っている療養者の看護 1) 褥瘡評価と使用薬剤・ドレッシング材の選択 2) 褥瘡処置方法と留意事項	講義	②
14・15	5. 地域・在宅で腹膜透析を行う療養者と家族への看護 1) 腹膜透析実施時の環境整備 2) 腹膜透析実施におけるアセスメント 3) 腹膜透析の管理：使用薬剤、使用医療機器、腹膜透析チューブ等の管理 4) 腹膜透析管理上の注意事項とトラブルへの対応 5) 感染予防対策 6) 療養者および家族への指導	講義	②

#### 授業の進め方

医療管理が必要な対象と家族への治療、処置看護として、身体状況のアセスメントの視点、生活環境下における医療機器管理の実際、関係機関や多職種との連携、社会資源の活用について理解できるように、具体的な事例の紹介や援助の動画（DVD）、在宅で実際に用いられる医療機器の現物を提示しながら教授する。医療機器の管理では、在宅での医療機器の取り扱い、管理方法など、医療機器業者による説明を取り入れて、地域・在宅で療養する対象と家族への治療、処置看護の実際がイメージできるようにする。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域在宅看護の基盤（医学書院）：②
2. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実際（医学書院）：①②

#### 評価方法

筆記試験、授業参加状況により評価する。

領域	専門分野	開講時期	2年																				
科目名 (単元名)	地域・在宅看護方法論V	単位数 (時間数)	1単位(15時間)																				
講師 (所属・職位等・実務経験)	①高木雅弘(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師31年)																						
<p>&lt;科目目標&gt; 地域・在宅で暮らす対象の慢性期、急性増悪期、回復期、終末期の各期に必要な看護展開を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>I. 慢性期にある療養者の看護展開の実際 (ALSの事例の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考えて実施する</td> <td>講義 GW 演習</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>II. 急性増悪期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 療養者および家族の状況を把握し、健康状態をアセスメントする</td> <td>講義 GW 演習</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>III. 回復期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪後、回復期の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考え実施する</td> <td>講義 GW 演習</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>7・8</td> <td>IV. 終末期にある療養者の看護展開の実際 (COPD増悪後で在宅看取り希望の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考える</td> <td>演習 GW 演習</td> <td>①</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1・2	I. 慢性期にある療養者の看護展開の実際 (ALSの事例の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考えて実施する	講義 GW 演習	①	3・4	II. 急性増悪期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 療養者および家族の状況を把握し、健康状態をアセスメントする	講義 GW 演習	①	5・6	III. 回復期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪後、回復期の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考え実施する	講義 GW 演習	①	7・8	IV. 終末期にある療養者の看護展開の実際 (COPD増悪後で在宅看取り希望の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考える	演習 GW 演習	①
回	授業内容	授業方法	担当講師																				
1・2	I. 慢性期にある療養者の看護展開の実際 (ALSの事例の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考えて実施する	講義 GW 演習	①																				
3・4	II. 急性増悪期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 療養者および家族の状況を把握し、健康状態をアセスメントする	講義 GW 演習	①																				
5・6	III. 回復期にある療養者の看護展開の実際 (COPD急性増悪後、回復期の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考え実施する	講義 GW 演習	①																				
7・8	IV. 終末期にある療養者の看護展開の実際 (COPD増悪後で在宅看取り希望の看護展開) 1. 療養者および家族の状況を把握し健康状態をアセスメントする 2. 今後の成り行きを推論し必要な看護を考える	演習 GW 演習	①																				
<p>授業の進め方</p> <p>講義やグループワークを取り入れて授業を進める。既習知識を想起しながら、事例を用いて健康段階各期の地域・在宅看護を具体的に展開できるようにする。看護展開の際は、地域・在宅看護論実習の実習記録紙を用いて、対象の理解を深め、看護展開する。地域・在宅で暮らす対象と家族の多様な暮らしをイメージして看護を考えられるように、DVD等の視覚教材の活用や看護実践場面の紹介を取り入れて進める。</p> <p>慢性期の看護展開は療養者と家族の地域での暮らしの継続、健康の維持を支える看護を考える。急性増悪期の看護展開は療養者の健康状態の急激な変化に対して、重症度や緊急度のアセスメントや状態悪化時の対応、関係機関、関係職種との連携について考える。回復期の看護展開は健康の回復の促進と地域での暮らしの再構築を支える看護を考える。終末期の看護展開は自宅での看取りの事例を用いて、意思決定支援やQOLを支える看護、グリーフケアについて考える。</p>																							
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域在宅看護の基盤 (医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)</li> <li>3. 国民衛生の動向 2022/2023年版 (厚生統計協会)</li> <li>4. リンダ J. カルペニート著 看護診断ハンドブック 第11版 (医学書院)</li> <li>5. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (学研)</li> </ol>																							
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、授業参加状況により評価する。</p>																							